

一 広 告

KIT  
キャンパス  
レポート



宅美 佳幸 (たくみ よしゆき)  
金沢工業大学大学院工学研究科  
環境土木工学専攻  
博士前期課程二年  
石川県立大聖寺高等学校出身

## パンデミックという転換期に直面し 積極的に挑戦したことが自信に。

昨年はコロナ禍で大学生活にも甚大な影響があったが、宅美さんは、自分が大きく成長した一年だったと明るい表情だった。新しい研究に取りかかろうという矢先に自粛となり、先生や学友にも会えず不安と焦りを覚えたけれど、指導教授の鹿田先生のアドバイスで前向きに考えるようになった。

「時間の余裕があり専門科目を一から勉強し直しました。そして現状でも可能な研究計画を作成し、予備的な実験を学内で行い、その成果を十一月、日本写真測量学会とACRSという国際学会でリモート発表できたのが大きかったです。夏には二回、計三週間の長期インターンシップにも参加したので時間のない状況でしたが、みんな頑張っているから負けられない

と思って。自分なりにやり切ったという充実感がありましたね。」  
宅美さんの研究テーマは「GNSSによる見当識障害者徘徊時の早期発見手法の実証実験」で、徘徊事故の防止策としてGNSSやスマートフォンを使用した手法を提案するのだという。地元病院と地域住民、金沢工大が連携して研究を進める。鹿田正昭教授の専門は空間情報工学。副学長で、宅美さんの研究など六つの空間情報プロジェクトを統括する。

「学部時代にいくつもの科目を教えていただきました。GNSS (GPS) の授業も面白かったし、熱心で学生を尊重してくれる鹿田先生の研究室に入りたいな。とても忙しい先生なのに、英語の論文も何回も添削してもらって。土木は自然や現場中心というイメージだったけれど、データをとって解析するという空間情報の分野を知り、ほくはデスクワーク型が向

いているかなと思っただけです。」  
宅美さんは大学で多くの人の出会いに助けられた。同級生が得意分野を互いに教え合ったり、シニアTA・SA制度など、「教えの連鎖」という考え方がしっかり実践されていることに心を動かされたという。知識を深めることはもちろんだが、何よりその時間が楽しかった。そして現在、宅美さんは学生をサポートする側にいる。

「感染症という大きな転換期に直面し、その中で積極的にいろんなことに挑戦できたという自信は、これから必ず役立つだろうと。地元が好きだし、今度は防災の分野で貢献したいと考えています。」  
大学受験でも就活でも背中を押してくれた父親は公務員。宅美さんは尊敬する「仕事好き」の父と同じ道を歩こうとしているのだ。

**金沢工業大学**  
石川県野々市市扇が丘七-1  
電話番号(076)248-1100